

令和3年「わけもんの主張」宮東大会 審査員講評

優秀賞

(宮崎市) 富岡 亜純 「若者の政治への関心」

<各審査員の講評>

- ・テーマを絞ることで明確化し、分かりやすい提言になっている。
- ・関心を高める為の3つの提案が的を射ている。
- ・投票率の低さを自分たちの問題として捉えていて、複数の具体的な対策を提案している点が評価できる。
- ・政治への関心を高める方策を、始めに「三つ考えた」と明示。そこから展開していく基本に忠実な文章構成。
- ・「宮崎の課題を紙芝居に」「子供、若者向け選挙番組」など、どうしたら若い世代が投票所に足を運ぶかを真剣に考えたあとがうかがえる。

優秀賞

(国富町) 河野 希美 「私の責任」

<各審査員の講評>

- ・コロナ禍と政治を結びつけて自身が考えている点が良い。
- ・選挙をコロナと同様に真剣にとらえている。
- ・昨今のコロナ問題を引き合いに、投票の重要性を説明していて、選挙に参加する決意が伝わってくる。
- ・主張が明確で、結論に至る文章の組み立て方もうまい。学校での自身の活動や、家業を例に挙げるなど、根拠も身近で説得力がある。
- ・コロナ以前から社会の出来事に一定の関心を持っていたように思われる文章である。

奨励賞

(宮崎市) 毛利 優美 「若者の問題か、社会の問題か。」

<各審査員の講評>

- ・「若者向けの政策を」に加えて「何か楽しみが見つけられれば」という視点は斬新で興味深かった。
- ・テレビ報道の課題や高齢者を重視した政策への偏りなど、着眼点が鋭く独自性がある。
- ・「投票1番乗り」の体験談はインパクト大。
- ・先日テレビで投票率向上のため、市民が普段は立ち入ることのできない場所を投票所にしてドイツの取り組みが紹介されていたが、具体的「見返り」の点から投票率アップにアプローチした発想のユニークさを買いたい。

総評

<A審査員>

「歴史」や「あるべき姿」を若者が認識している事は重要で、6人からは頼もしさを感じた。ただ、どうしても「聞いたことのある話」になりがちで、上位の内容は新しく、高評価とさせてもらった。コロナ禍と政治に触れたものもあり評価できるが、もっと深掘りしてほしかった。

<B審査員>

全体的に若者は、選挙、政治に関心がない所からスタートしている。そこから、自分たちが何をできるかを主張してほしいと考えているが、どこか他力本願だったり、責任は大人という内容も見受けられる。若者が受け身である以上は関心は高まらない。積極的な姿勢が欲しい。

<C審査員>

皆、自分なりに若者の投票率低迷の理由を考え、対策を提案している点が大いに評価できる。報道機関として参考にしたい意見もあった。発表者の主張、思いが周囲の若者たち、関係機関に伝わり若年層の政治参加に良い影響を及ぼすことを期待したい。

<D審査員>

自分自身の体験を盛込んだり、選挙に関する実情をきちんと調べてデータで示したり…と、いずれの作品も投票する意義や、どうすれば自分たち若者が政治に関心を持てるようになるかなどを、一生懸命考えたあとが伺える力作だった。「正直、政治に関心がない」と包み隠さず述べた作品、選挙権を得てのワクワク感を綴ったもの、どれも今の若者の偽らざる姿なのだろう。「どうしたら政治に関心を持ち投票所に足を運ぶようになるか」をどの作品もきちんと書き込んでいるが、逆のアプローチとして「もし若者の政治への無関心が『大人』になっても続いたら」の発想で書いたものがあった。国民不在の政治がいかなるものかは、歴史や民主主義のない現在の他の国のことを調べれば容易に想像がつかう。今当たり前のように享受している平和や自由が永久に保障されたものではないこと、それらを受け継いだ若い世代がさらに次の世代に引き継ぐためにも政治に関心を持ち、参政権を行使することが大事なのだという視点の作品も見えてきた。